

令和5年度第3回史跡めぐり（区内）

「源通寺・高德寺・宗清寺・萬昌院功雲寺・たき火の歌の垣根」

令和6年3月28日（木）実施

1. 「源通寺」



2月末から3月に入っても寒い天候が続き桜の開花宣言もないままに実施となりました。実施日の天気予報では夜から雨と言っていたのですが、お昼の受付の時には雨がポツポツ降り出してしまいました。開始時間には、雨も上がり総勢22人で東中野銀座商店街を通り抜け早稲田通りを渡り最初の源通寺に、浄土真宗大谷派の一寺、創建は1610年、開山は祐尊和尚（松本城主小笠原長時の長子長隆）、本尊は阿弥陀如来像です。山門を通ると、正面に本堂があります。墓地には江戸～明治時代にかけての歌舞伎・狂言作者河竹黙阿弥（本名は吉村 芳三郎よしむら よしさぶろ）の墓があります。

私でも知っている『三人吉三廓初買』（さんにんきちさ くるわの はつがい）と『青砥稿花紅彩画』（あおとぞうし はなの にしきえ）の白波五人男は河竹黙阿弥の作です。

2. 高德寺



高德寺は、真宗大谷派に属し、荒居山法喜院高德寺と号する。当山開基は釋了智（しゃくりょうち）です。釋了智は、鎌倉時代初期に生まれ、名を佐々木高綱（ささきたかつな）と云い。源氏武士の家系で宇治川の合戦において功名を馳せ、備前国（現在の岡山県）、安芸国（現在の広島県）の守護を命ぜられた時もありましたが、時代の波には勝てず、武士の職を辞して出家し高野山に入山する。



その後、稀なご縁にて越後（現在の新潟県）で親鸞聖人（しんらんしょうにん）と出遇い、真宗門徒となった。1100年代に長野県松本（栗原）に一寺を開き「正行寺（しょうぎょうじ）」とした。そののち代を経て上州（現在の群馬県）荒居に移り「荒居山高徳寺」を建立した。

当寺の中興の祖は釋宗信である。本願寺第十三世宜如上人に深く帰依して、元和2年に下総国相馬郡（現在の千葉県久留里）豊田村に移った。その後、江戸浅草清島町に移る。

明治41年に区画整理計画により現在地に移転し、太平洋戦争中に空襲に遭い、本堂・庫裡（くり）を全焼した。

このお寺には、**新井白石夫妻と一門の墓**があります。その生涯は（明暦三年（1657年）～享保十年（1725年））です。その間に、二度にわたり当寺に寄食され「折りたく柴の記」などを執筆しています。朱子学者一介の無役の旗本でありながら六代将軍・徳川家宣（とくがわいえのぶ）の侍講（じこう）として、御側御用人（おそばごようにん）・間部詮房（まなべあきふさ）とともに幕政を実質的に主導し、

正徳の治と呼ばれる一時代をもたらす一翼を担った。

墓地には、美容家・山野愛子さん、明治時代の女性記者・磯村春子さん（NHKはなこうまのモデル）、芸能界では沢村国太郎さん、長門裕之さん、南田洋子さん、柳家三亀松さんなどが眠られています。

3. 宗清寺

そうせいじ



宗清寺の前身は牛込原町・松雲寺と、同区喜久井町・浄泉寺を明治40年5月23日付で移転。両寺を合併して松雲寺と号した。

大正2年宗清寺と松雲寺が合併して、芝松坂町より現在の地に移転し、松雲山宗清寺と号して現在に至っている。

山門には、龍の彫刻が飾ってあります。

墓地には、水野忠徳(1810-1868・明治元年7月9日.58才没)のお墓があり、幕末の外交に活動した幕臣、五百石取の旗本であり、筑後守、下総守、浦賀奉行、長崎奉行、勘定奉行、目安家老、外国奉行、軍艦奉行、函館奉行など、要職を歴任、開明的な能吏として幕政改革と外交上の難件処理に手腕を振り、列国との条約、調印や横浜開港の衝にあたった。

文久元年5月には、目付・服部帰一を伴ない小笠原に上陸し「日本領土」であることを宣言した。また、安政元年には露国ブチャチンと千島の国境を決定している。

また、「白翁大黒天」と呼ばれる大黒天像がある。この像は日蓮の作とされ、鎌倉の建長寺にあったものだが、火事に遭った際に近江国伊香郡に飛び、後に福岡藩の藩主となる黒田氏の手に移り、黒田長政の代になって当寺に奉納されたものである。当寺の別名の「なが寺」は「長政(ながまさ)の寺」の意といわれています。

4. 萬昌院功雲寺



萬昌院功運寺は、道元禅師の教えをまもる曹洞宗のお寺です。大本山は永平寺・總持寺です。昭和二十三年までは久寶山萬昌院と竜谷功運寺という、別々のお寺でした。久寶山萬昌院は、戦国武将として有名な今川義元の子今川（1月）長得が天正2年（1574）に佛照圓鑑禅師をまねいて半蔵門の近くに開きました。その後、幾度か移転し、大正3年（1914）、牛込より中野に移りましたが、三年後の大正6年に本堂が焼失してしまいました。竜谷山功運寺は、慶長三年（1598）に、永井尚政が父尚勝・祖父重元のため、黙室芳闇禅師をまねいて桜田門外に開いたお寺です。尚勝・尚政の親子は、徳川家康につかえて活躍した大名です。功運寺がいくどか移転をし、三田からいまの場所に移ったのは、大正11年（1922）のことです。墓地にはさまざまな人のお墓があります。有名なのは萬昌院で守られてきた吉良上野介義央のお墓です。ほかに南蛮外科医・栗崎道有のお墓があります。吉良上野介が浅野長矩によって傷を負わされたとき、道有が手厚く治療したとのこと。また討ち入り後、上野介の首と胴体を縫い合わせたのも道有であり。ここの墓に埋葬されているまた、討ち入り当夜に応戦した清水一学の刀は、刃こぼれがすごいものと御住職のお話がありました。

他にも著名な人のお墓として旗本・水野十郎左衛門（幡随院 長兵衛との確執）、浮世絵師・歌川豊国、作家・林芙美子などがあります。



5. 「たきび」のうた発祥の地、垣根



かきねの かきねの まがりかど
たきびだ たきびだ おちばたき 「あ
たろうか」「あたろうよ」 きたかぜ ぴ
いふう ふいている

今も人々に愛唱されている「たきび」のうた。この童謡の作詩者異聖歌（たつみせいか：本名：野村七蔵 1905～1973）は、岩手県に生まれ、北原白秋に師事した詩人で、多くの優れた児童詩を残しています。

聖歌は、この詩が作られた昭和5、6年頃から約13年の間、萬昌院のすぐ近く、現在の上高田4丁目に家を借りて住んでいました。朝な夕なにこのあたりを散歩しながら、「たきび」のうたの詩情をわかせたといわれています。

歳月が流れ、武蔵野の景観が次第に消えていくなかで、けやきの大木がそびえ垣根の続くこの一角は、今もほのかに当時の面影をしのぶことができる場所といえましょう。（教育委員会の立て看板より）

6. 櫻ヶ池不動院



当地には昔から豊かに清水が湧出し、いつの頃からか大きな椿のもとに小さな祠があり、お不動様が祀られておりました。村人はお不動様の清水、櫻ヶ池の不動様と称し、大事に守って参りました。

古老の伝承によれば、江戸時代中期享保のなか頃より上高田には榛名、大山、武州御嶽、三峯の四講があり、講中の代参者は禊清めました。また日照り続きのときは雨乞いを祈願したり、あるいは子どもの遊び場所としてこの辺りは村人から親しまれていました。長年、当地の住人により護持されてきたが、1987年東光寺の別院になりました。